

特別講演 2

「慢性閉塞性肺疾患（COPD）をめぐる最新の話題」

和歌山県立医科大学 内科学第三講座 教授
一ノ瀬 正和 先生

近年のガイドラインの普及ともあいまって、慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者に対する積極的な治療、管理が、多くの患者の症状を軽減させ、増悪の頻度や重症化を防ぐのに有用であることが、呼吸器専門医はもとより一般臨床の場でも広がりつつある。

安定期 COPD の薬物療法では気管支拡張薬がその中心をなす。COPD 患者は、一秒量で見ると約三分の一は有意な改善を示す。また、一秒量で改善がわずかであっても、細気管支領域の拡張による肺気量位の低下から運動耐容能は増加するので、COPD 患者に対して積極的に気管支拡張薬投与を行うべきである。COPD 患者は気管支拡張薬の中でも抗コリン薬に最もよく反応するが、より重症度の高い場合には多剤併用が効果・副作用のバランスからいって望ましい。COPD は勿論肺の疾患であるが、その影響は全身に及ぶと考えられ、治療の重要性は益々高い。